

2018年9月

IAEA総会

一般討論演説

2018年9月17日から21日まで
国際原子力機関（IAEA）第62回総会が開かれました。
日本政府代表として松山政司内閣府特命担当大臣が出席して、
初日に一般討論演説をおこなったそうですので、抜粋してみます。
まず、何から語り始めたか？というところ。。。（参考資料①）

北朝鮮の核問題、イラン核合意

（北朝鮮の核問題）

北朝鮮に対して、関連安保理決議に従い、
全ての大量破壊兵器及びあらゆる射程の弾道ミサイルの
完全、検証可能、かつ、不可逆的な廃棄を強く求めます。

（イラン核合意）

国際不拡散体制の強化、地域の安定の観点から
日本は引き続き核合意を支持します。
同時に、イランを含む当事国による核合意履行の継続を求めます。

日本の原子力政策

（エネルギー基本計画）

2030年に向け、原子力は可能な限りその依存度を低減する一方で
安全最優先の再稼働を進め、
2030年のエネルギーミックスの実現を図って参ります。
また、より長期的な観点から2050年を見据え、
エネルギー転換・脱炭素化に向けあらゆる選択肢を追求します。
人材・技術・産業基盤の強化に直ちに着手し、
革新的な原子炉の開発等の国際動向も踏まえた
安全性や機動性等に優れた炉の追求、バックエンド技術の開発など、
原子力分野でのイノベーションにも取り組みます。

（プルトニウム利用の基本的な考え方等）

日本は、プルサーマルの着実な実施、
保有するプルトニウムの利用及び管理の透明性を高め、
厳格な保障措置を徹底し、
核不拡散と原子力の平和的利用の責務を果たしていきます。

福島第一原発事故後の取組、原子力安全

(福島第一原子力発電所事故後の取組)

日本は、廃炉・汚染水対策等に着実に取り組んでいます。

国や地方自治体が実施する除染活動が計画どおり完了させるなど、環境回復活動にも積極的に取り組んでいます。

(原子力安全)

日本は、原子力安全の一層の強化に取り組んでいます。これまでに計9基の原子力発電所が再稼働しましたが、今後も、安全を最優先に再稼働を進めていきます。

日本は、福島IAEA緊急時対応能力研修センターの活動を支援し福島第一原子力発電所事故の経験を踏まえた国際的な原子力安全の強化にも貢献しています。同時に、原発導入国の基盤整備や原子力人材育成等の支援に取り組んでいます。

原子力の平和利用

原子力の平和的利用の促進はNPTの3本柱の1つです。「平和と開発のための原子力」は「持続可能な開発」(SDGs)達成に資するものとして、天野事務局長の取組みを支持します。

核セキュリティ

2020年、東京オリンピック・パラリンピック競技大会が開催されます。本年、日本はIAEAとの間で、同大会に向けた核テロ対策に関する協力実施取決めに署名しました。この取決めに基づき、IAEAとの協力を強化し、核テロリズムを含むテロ対策に万全を期します。

IAEA保障措置

IAEA保障措置は核不拡散のための中核的手段です。その更なる強化・効率化に向けたIAEAの取組みを強力に支持します。日本は、引き続き厳格な国内保障措置を徹底していきます。

最後に一言

まるで「事故はすっかり落ち着いたんで、その経験を生かして、他の国にも教えてやるよ」とでも言うかのような。。。いまだに原子力緊急事態が解除できない国とはとても思えない演説。そして『原子力は可能な限りその依存度を低減する』『原子力分野でのイノベーションにも取り組みます』という日本の政策を理解できる国はあるんでしょうか？『依存度を低減』しなきゃいけないと思っているってことは、原子力は良いものではない、と思っているってことですよ？なのにその開発を続ける、って意味わからないです。

参考資料
①外務省HP 「国際原子力機関 (IAEA) 第62回総会」
https://www.mofa.go.jp/mofaj/dns/n_s_ne/page22_003072.html